平成２２年５月（第１２号）

NPO 法人
首都東京みなと創り研究会
東京都練馬区西大泉３丁目１３番４４号
理事長　　小　倉　健　男
http://members3.jcom.home.ne.jp/mtport

活動報告　　親子探検ツアー（イメージアップ事業）に参加して　　髙野一男

公共工事とそれを担う、建設業などへの理解を進めてもらうためのイメージアップ事業は、各所でいろいろな形で実施されています。しかし港湾工事の場合は、離島のように住民と身近なところでの工事を除き、ほとんど行われてきませんでした。

近年、公共工事の中にイメージアップ経費を計上することが出来るようになったことから、現場見学会はもとより、トンネルのなかでのコンサートまでイメージアップ事業として行われています。

港湾局では、首都圏四千万人の生活と産業を支える東京港とそれを建設してきた港湾工事への理解を深めてもらうため、今年度からイメージアップ事業により積極的に取り組むこととなり、当 NPO に協力依頼がありました。

その第一弾となる事業の企画は、港湾局と NPO で協力しながら検討を進め、海の「ごみ処分場」親子探検ツアーとしてまとめられました。

平成 22 年 2 月 11 日、あいにくの雨模様にも関わらず､約 5 倍の競争を勝ち抜いた？親子が、日の出埠頭に集合しました（当日のキャンセルは 1 組のみ)。

日の出埠頭でツアーの受付

以下当日の様子を実況風に・・・・・

・定刻に日の出埠頭を船で出発、お台場へ
・「ゆりかもめに乗っていた若い女性のグループが窓外の港を見て「あら横浜港は意外と近いのね」と話していましたが、ここは東京港です。」と笑いをとり最初の掴み
・レインボーブリッジを下から見上げて、その高さに皆感嘆の声

NPO 会員による船内説明状況

・台場の由来と旧防波堤の説明に「そうなのか・・」
・東京港トンネルの説明に「何度も通ったけど海の下だったんですね」とお父さん、東京港には 3 本のこうしたトンネルがありますよ
・大井ふ頭に接近、NYK バースの３００ｍを超える大型コンテナ船に、こんな大きな船を見たことがないと感心しきり
・防波堤を過ぎたあたりから船の揺れが激しくなる、想定以上、船酔いの人も出てくるが比較的症状は軽く少数
・新海面処分場 G ブロックの中に入り大型グラブ浚渫船を直近で見学､デッキに出て風にあたってもらいながら大型バケットの迫力を体験
・いよいよ枠船「てんゆう」へ、波風とも強く乗船かなわず､枠船の中へ入り入口のゲートを閉める､ゲートが海中から上がってくるのをみて「なぜ・・・・」と質問があちこちから、枠船に乗れなく「中に梯子はないんですか」と残念がる人も、

“てんゆう”の中で

・CDM 船の見学では現地盤のサンプルと改良後の固化したサンプルを手に取ってもらう、「どうして固めるのですか？」にウムー
・中央防波堤外側工事用桟橋から上陸しバスで処分場内へ、お立ち台から船での体験コースを確認、磯浜の工事場所を護岸の上から覗きこむ、説明用のパネルを見て建設費が高いことに「こんなに掛かるんだ・・」
・渋滞（青海縦貫道路）のなか「みなと館」へ、このあと「みなと館」で館長から、東京港の埋め立ての変遷について簡単な説明を受け、思い思いに上から東京港を眺めて解散となりました。

NPO の参加については、企画の初期の段階と、当日の説明については十分に実力を発揮できたと思います。しかし、はじめての取組であったこともあり、企画の詰めの段階の港湾局内の調整に時間がかかったこと、当日結局、港湾局の職員が多く出てくることになったのは、今後の課題だと感じました。

みなと館での説明

今回の経験を踏まえ、港湾局、請負者、NPO の役割分担についてもう一度意見交換をして明確にする必要がありそうです。

ともかく、参加者に好評を得て成功裏に終えることが出来ました。

今回の事業の調整役を担った NPO 事務局をはじめ、当日ガイド役で参加した会員の皆様に感謝いたします。

お立ち台で記念写真

講演会のお知らせ

ＮＰＯ法人「首都東京みなと創り研究会>主催の講演会を下記のとおり開催いたします。

演　題　　「日本の港湾政策と取り組むべき課題について」
講　師　　平野　裕司氏
　　・日本郵船株式会社アドバイザー
　　・元同社代表取締役副社長
　　・社団法人東京都港湾振興協会会長
日　時　　平成２２年６月４日（金）　午後２時より
会　場　　芝浦サービスセンター　大会議室
　　港区海岸３-２６-１　バーク芝浦
主　催　　特定非営利活動法人　首都東京みなと創り研究会

『マダガスカル国の港湾』

（財）国際臨海開発研究センター　五十里　圭紀

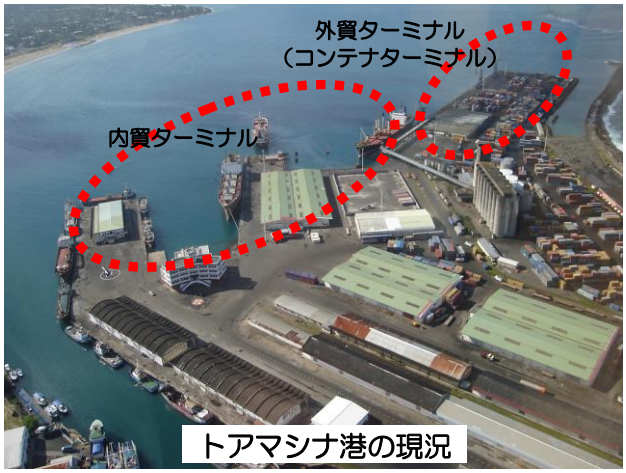
はじめに

平成 21 年 1 月から 12 月まで JICA 発注のトアマシナ港拡張計画準備調査に参加しました。ここでは本調査を通して得たマダガスカル国の港湾事情などについて報告します。

調査概要

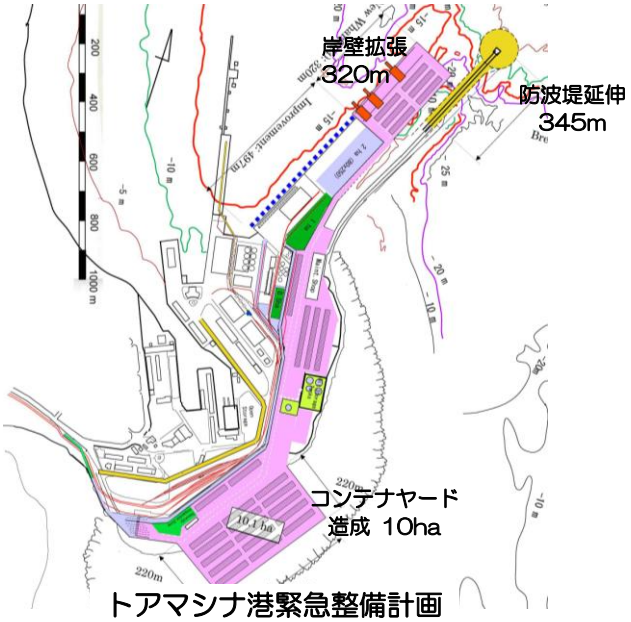
マダガスカル国はアフリカの南東海岸とモザンビーク海峡を挟んで対峙する島国で、海上輸送が基幹輸送の一つとして重要な役割を担っています。首都アンタナナリボの北東 200km に位置するトアマシナ港は、インド洋に面した地の利を有し、首都の外港としての役割を担う同国最大の外国貨物取扱港です。また、内航海運のハブ港でもあり、対外的にも国内的にも物流の中枢として極めて重要な役割を担っています。

しかし、同港は老朽化し、岸壁の喫水が浅く、大型コンテナ船が喫水調整して接岸する状況に加え、背後の荷役スペースも狭いなど荷役効率が悪く、時間的・金銭的な不経済が発生している状況となっています。



今回の調査は、既に顕在化している問題に対応するための拡張計画（緊急整備計画）のフィージビリティー調査であり、技術的、経済・財務的な実行可能性を検証するものでした。

現地ではターミナルオペレータや港湾管理者へのヒアリングや資料提供を得て需要予測をすると共に、測量や環境調査などの自然条件調査を実施し、施設計画を立案しました。本調査で計画した整備計画を下図に示します。



主な整備施設としては、コンテナ貨物の急増に対応するためのコンテナターミナルの拡張と防波堤の延伸、コンテナヤードの造成などです。計画立案に当たっては隣接するサンゴ礁などへの周辺環境にも配慮しシミュレーションを実施すると共に、この結果を地元住民に説明し、計画に対する意見を聴く場を設けました。更にこの計画に基づく経済・財務分析を実施し、プロジェクトの実行可能性を評価し、プロジェクト実施の必要性を確認しました。

おわりに

本調査の需要予測からは中長期的には更に整備が必要との指摘があります。マダガスカル国はニッケル等の鉱物資源や林産資源が豊富で、同港の能力拡張はますます重要であり経済発展には、港のさらなる整備が不可欠です。

今回、現地での生活を通して、多くの人たちと交流する事が出来ました。また、住民生活の向上に貢献する本調査の一部を担当することができ非常に良い経験を得ました。今後のマダガスカル国の発展を願い、この報告を締めたいと思います。

つぶやき　病中有閑

小倉　健男

昨年８月２１日昼ごろ、下腹部に異様な痛みをますますひどくなった。この日は、夜、港湾局の退職者送別会があり、参加することにしていたが、急遽とりやめ近所の医院に飛び込んだ。腸閉塞かもしれないが一晩様子をみることにした。翌２２日（土）痛みが止まらず、日大医学部付属練馬光が丘病院へ入院。内科と外科の医師が相談をしているので、「あと、５～６年は生きたいので、お腹を開いてみて欲しい」と要請。２４日緊急手術。病名はＳ状結腸穿孔であった。腹膜炎を起こしつつあったが、処置が早かったので大事にいたらず、人工肛門のおまけつきで、９月２０日退院。この経過が今回私に生じた病気のいきさつである。

衆議院議員選挙の大詰めを迎えていた。私は昔選挙権を得て以来棄権したことが無い。しかし、今度ばかりは無念の棄権となるかと覚悟した。しかも、自民・民主両党の決戦である。ところが、２７日になって、練馬区選挙管理委員会が病院まで出張して不在者投票を受け付けてくれるということになった。ベッドで投票を終えたが、役所の熱意にはあたりまえというかもしれないが感謝した。それにしても投票に行かない無党派層が依然として多いのはどういうことだ。民主党が大勝した。ベッドでは新聞をすみからすみまで読むハメになった。民主党は内弁慶で、無知で素人で、無責任で口説の徒の集まりだ。

普天間問題などは、国と国との約束だから民主党になっても変えるわけにはいかない、といってしまえば終わりだったのだ。せいぜい沖縄の票があてにならなくだけだ。逆に沖縄が北東アジアの安定の要になる地政学的位置にあることを、全国民特に沖縄県民に訴えるよい機会であったのだ。

勿論、民主党には旧社会党がもぐりこんで中を食い荒らしていることはわかっていたし、小沢自由党はただ民主党に入り込んで、政権を自民党から奪取するための方便としていることは明々である。そのことがわからないで、人参を目の前にぶらさげられて投票した選挙民の未熟さは、程度が悪いといって片づけられるものではない。自業自得か。それにしても、小選挙区制度で岩手県の一選挙区の住民が選んだ人間が、わが国の将来を左右することになるとは吃驚だ。この制度は、わが国にはなじまないといわざるを得ない。

民主党に能力がないことははっきりしたから、この次の選挙は決して過半数をとらせてはいけない。なにをするかわからない。鳩山は本当に宇宙人だ。日本をまかせるわけにはゆかない。小沢は胡錦涛の前で、「私は人民解放軍の前線部隊長です」と云ったとか。ならば、胡錦涛の命令のもと、民主党を率いてわが国を中国の領土にするつもりか。これで小沢の馬鹿さ加減がわかった。胡錦涛も吃驚したと思う。

とても出来ることとは思わないが、民主党にやってもらいたいことは、ただ一つ。無能な国家官僚を一掃することだけでよい。特に、全国に採算に合わないコンテナ港湾、地方空港を作り続け資源をばらまき、浪費し恬として恥じない無責任な連中をなくせば、私はいささか民主党を評価するかもしれない。

こんなことで半年が過ぎた。今年に入って２月１５日、予定通り人工肛門閉鎖手術が行われ、腸がもとにもどって２月２７日退院。少し寿命がのびた。

ついでながら、私の消化管には、食道から肛門までほかに異常がないことも分かった。政治の大混乱にもかかわらず、わが国の医療の現場は素晴らしいスタッフに支えられていることを言い残しておきたい。

事務局から

事務局長　大野　皓一郎　090-6018-1013
事務局　清水　武雄　090-3427-0370

本号は 21 事業年度の最終号です。本年は本号でも紹介しておりますが当 NPO 活動では初めての港湾局工事イメージアップ事業に参加しました。今後も同様の事業が継続すると聞いております。会員の皆様の積極的な参加を期待しております。